

南岳写



寛政十戊午

新曆

蝶鳥も日一様家や初日新 富嶺

菴お茶も修一並立 右文

野雀ひの晴川く子音信く 左文

守歳

来年のふし一々々 吉言待り 右文

春をそとく一屋中一連の梅の意 左文

セいの春ふきあふく一々々新造よきあ

茶話や一々一我々夜お泊り全 東西房

春興

下弦うけハ西のよのや 雲下菴

連月

曳揚く鳥帽をさるる 子の日可な

有筆

三月也 唯の仁あるあし 山

清和調詞三首 表白

花衣ぬく水く 月乃 荖く那

比墨庵

二 拒哥

一枝の葉も白ふ 世のあし

三 和詩七絶

あはれ妹を我らふし びんか とも人の笑ひのあし
今も昔もあし かくして 今も昔もあし

歳旦

言々舎

今朝の妻 素袍のむく 今も昔も 有響

筆店

名人をおし 玉鬚の中 乃 是白 生

春興

散いそく 志不 思 あり 取 能 有 生

えん

東岡

我ハ東無巧々々々峰の初り水一風

年抄

昔季ゆと思へる一葉の片も

春興

山住の筆を引ふ弟のたきこころな

年始

目々々々山

芳仲亭

連月

急く月の中

年抄

梅生る猿へ山本草の

久節うな

五

元旦

白のあふ花の

授田斎

しらぬや 福来軒 竜玉

栄善

何事もなく

左

すくなくし年の暮

歳旦

友流亭

と朝の喜園も傾く心音 江山

歳暮

去る年よりおくる水 左

春興

春のやり先への心音 左

早春

梅り多し

此のハチマキ

初日

喜波



春興

春斗

雲の中うま

いさなり

卯

二菴

真子



高興

美の夜の

雨ふ脱衣

母の裾



灌美奇
東泉

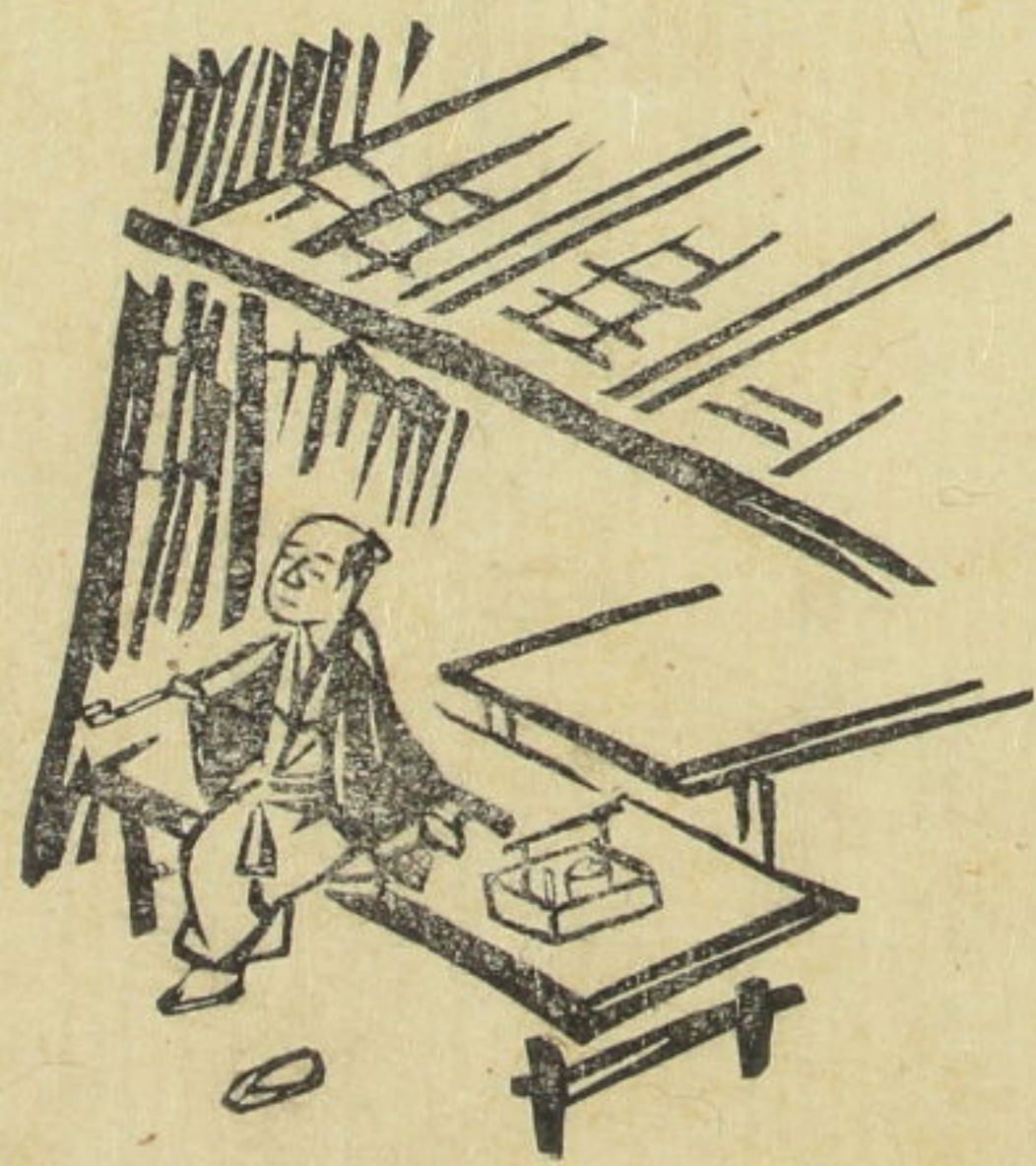
美

如

美しい身裁

おたろ

妙々菴
右文



春興

春の風

さし

あやうし

梅の花

東林菴

嵐



夏興

鮎節

夏のひまり

勤王

杏花堂

九文



喜興

梅うきを

後々々

風の

り染るる

清泉菴

琴韻



歳旦

大板のつぎやぬ

種をめぐらるれ

正徳元年

由甫



峯香

まゝ生々々又笑り

せいほう

全

春興

遠立の去る影は柳うねり	山嵐
梅干は柔柳不詳し	琴嶺
喜ぶまゝ人の心ゆ	宗演
りあをさるるそと	歌々
西歩んく梅一きと	流之
一二寸のひ	竜玉
海城此のんとりと	白駒
足えよ子まぬ	東西房

春興

赤くの門ふくちあり	燈の梅	重下菴
場へ	富嶺	
結ふき鏡の登り	有等	
立石の字のあり	和笑	
宵目ふくち	東皋	
きちのう	右文	
こそと菴の	た文	
そつと	祭演	

老山の女帝を——く 詩を 嵐
 画き—— 船を 寄て 彩を 琴嶺
 産卵の花に地盤を催して 健月
 續く日あり—— 夕暮る 抱危
 浪客も 伝多を 求めて 暮る 晚浦
 新の中へか—— 葉は 江山
 初雪小思りぬ 顔向 柳本 柳院
 又若 柳七八 凌ふ 柳 風音
 古 鍾 齊 行 下 略

喜興

いろとりもふは——の 片に 青鏡
 一里りキニ里由く 終月 其頂
 新夜の入るも 梅の 片に 晚浦
 柳屋のわらふく ぬる—— 細流 助治
 梅咲中 春苔の 臺子 鞠院
 柳屋くく 終り 雨夜の 品さ 三
 蓮葉や—— 海老も 姥も 柳院
 知の人小も—— ぬる—— 湯屋 文雅堂
 之 林

文雅堂

喜興

系うけふ花ふ好様や池の上 鳳有
 英一きま枝 花ふ湯新彼うか 襟定
 表門の井もろし梅の花 隣司
 梅の月 雫子ふあつ物一うな 襟亭
 え旦
 井掛ひあつもろつるや唐蘇の酒 襟危
 初羅の存やすうふ 明のま 君緩
 糸（おひけ）こすや袖路のふきの枝 遊厄
 け一夜喜興舞の張りや 君緩

喜興

川浪も小鮎も光る旭う那 普山
 こ骨のやとさうと向ても志の中 喜蝶
 人声の重ふ清くも志の山 柳翁
 春風の中流るほろりてふ志 一志
 於新のゆさうふ花ふま志の形 女 雫鳩
 御尋のや磯馴梅うさや志の形 八墨菴

青帝

ゆりゆりし日のちしあなる光うを 和笑
あやかしつぎて都の山うろく 汝海
えりや月日まゝる 不老門 白駒

年指

をまのあき客を恋や燦の中 和笑
手やちや 往来も絶す大も吼 汝海
隣より迎きハ喜そと手ち夜 白駒

春興

巨達うく梅の若るる家あうの 三好
女

聖節

新あつきりやあま振神の美 佳更
傍

春夜洛城聞笛

笛のちるや 都のまも 旅松 全

暁中世をふ梅のこゑ 白ふ 土卯
東山

糸当ハ拵とつゝあや山橋 都舟

何炊くおのをうや 鏡月、 月峰

匙菊溪客探屋

春の柳 竹のちや梅は茶、 志諺

すり入く鏡塵く 梅の花 都雀

寄興



未をこし一ひたりし時のまきの音 洪吉
まきあやけ時のまはりくとき 紫演
下結ふのそんちと志し梅の陰 藤天

聖節

上下のきりや年ころと朝のまき 紫演
福壽子と朝の遠り花咲ふより 歌卿
門松子凌鶴 舞中ころり流之 流之
年抄
まふ糸さした梅年一日の友とえ 哥以
あつらひし年のまきり 習の音 流之
まのまのまののまきり 夜 紫演
湖水眺望
まのまのまののまきり 夜 紫演
東西

春興

紅梅の笑顔を見やう日南の那 鹿月

春風小袖笠あがり 小梅子 吟春

中宮父入やこゝろ集ふ牛を牽かる 霞洲

雑旦

巨龍子こゝろを海あり 明の春 吟春

春興

梅咲く 葉を乞ひたり披搆の坐 緑琴女

春興

多きそのや 照く風の光をよめる 唄山

系々

神くとも月もわづらや梅の志 賈友

冥都被ふふくむまの風 烏角

つりや磯 苔の如くの夕雲 牛乳

思ふくふふむの世 一や梅の志 都雀

梅さぬぬ袋もえくら志のや 志遠

松の山も柳 一々 柳 目西 宗盛

すうの葉もふ梅 ちりりあつる土松分 月峯

神の志や 一々を 入る波居うね 雲流

歳旦



大坂連中

唐蕪くもや 漢才よやう友と髪 里山
 鶉の卵をアかんとして明のま 猶鶴
 蓮菜の根の滞りたるりり那 八章

一昨王去年不成りり鶉のま 東吾
 緜くぬ駒のいさや 市代の春 藤文
 せんくふ事る年も又明のま 三峯

歳暮

い風の仲ふ事あり年一の市 菟文
 月花も志へかき也 唐可那 儿孝
 年暮んりして梅のそおる 里山
 川手やとさぬ流のま車 於鶴

新遠小舟人出ぬ大三十日 东吾
越古在端ありりり 逢の香 三峰

春典

碑を沈く人あり 春乃 風 狂 鶴
春風一葉ふ白のや 梅の志 三峰
月下く梅ふ雪かき 白ひうぬ 菱文
むつちや 井筒の歌の梅柳 里山

人亦流るつるや 花の色柳 东吾
梅咲や 黄鐘調のか子の香 几章

年内立春

大坂

逢のうらふ春を白のや 梅 小仙^女

春典 郊外を道違へて 日所

新りさけ小松の葉や 雛子の香 繡戸

冬之巻

紀州若山

海城や 雪ふ春をハ本亭 夏潮

元旦

作例は山

孤き心も春くこの旦の那

芝馬

兼音

居と種添く心の思ふや衣破

全

年内立春

日近差村

川水の音もめり山や海の川

猿人

花蝶改

春興

借後山

下結うけの旅人セリ

應宇

俊中クラキ

うらなや 棋ハちやく川よ申

芳岨

春興

何と盛漢

苗年のみ少も雪のうらなう船

兼音

りまや 世界の人のうらな

土佐高知 又南

何とやふ人なうらな

新尾

渡波白音

若歌や 多まはふ心

岩あえ

ちり入るの腕めや

野の花心 常味

折皮高知

永きや 何と花をうらな

枝風

元旦

紀伊若山

福也也 家も神楽も口も常々 常閑

也の白

新らー 湖交し 中年のうれ 五

喜興

西接尾家

出代も 猫をささるる 腹を 和樂

遊も 新朝の初業世禱 宗栗

冬之白

加吉川

流し とも 眠る 居る 中 竹 鶴 巴山

年始



初 卯也 喰え 進く

鶉

急ぐ

壽宮

信後尾尾

守歳

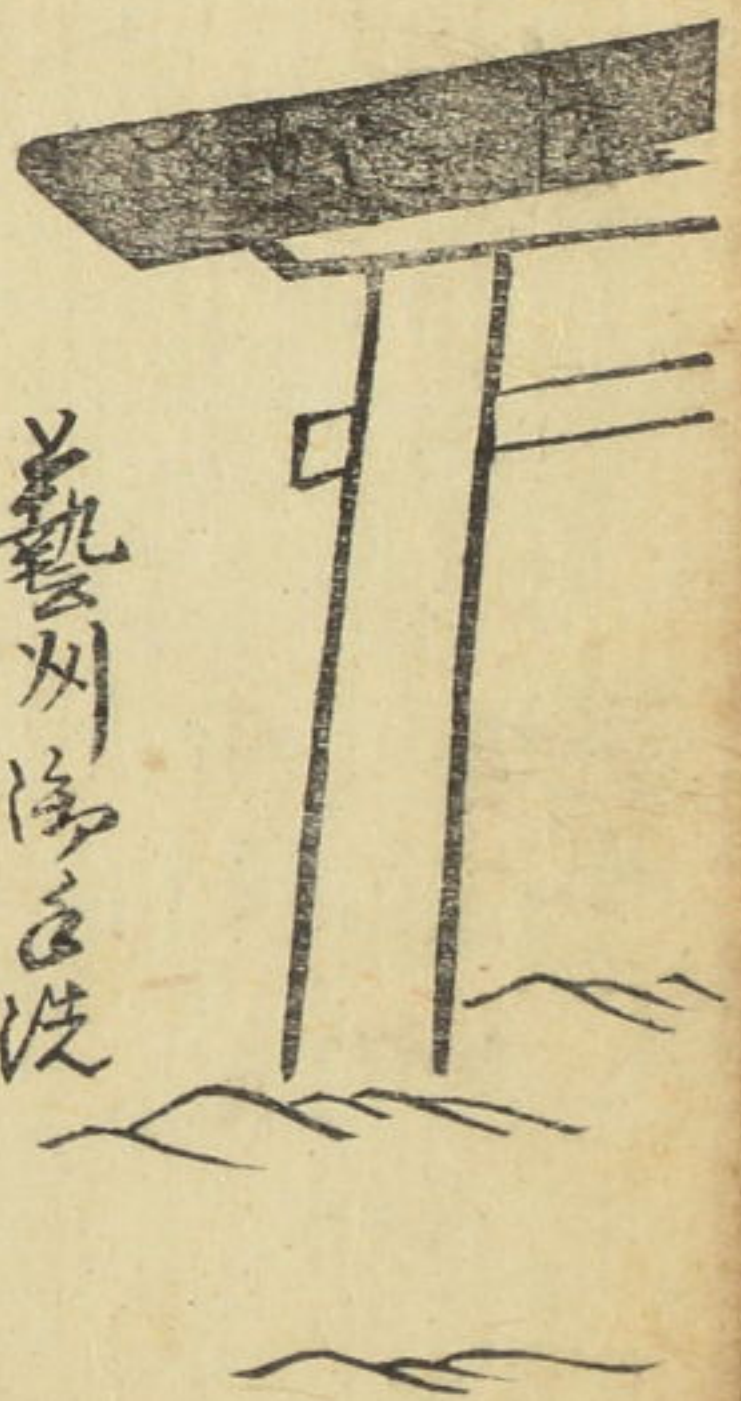
大船の飾 喜結 糸をうぬ 立

喜興

日初山

邯鄲の松 やりぬ 喜の魚 魚地

奇興



藝州海軍使
連中

清目橋

箫聲中橋かぐれのか繁地壁 芝舟
 新なる里ハ日さし 喜如雪 竹田
 陽光中地橋の縁りの草の蔭 淡水
 各仙のこゝろく 咲ぬまきの雪 侘子

保ちぬぬゆふのふやな橋 紫雲
 雨を帯やなぬまき 柳 睡佛
 陽光中 天宮の庭 老の蔓 花笠
 ささぎの山やほしのまきん 草枝
 斜なるちあ良の都の橋 麻 五柳
 喜興
 日川尻
 紅梅や古き 夕のあふ 藤のふ 金鏡

妻興

長洲菘

苗多々秋の晴や葉のこゝ 丈波

その時

日長府

木よりしや鳥の鳴もかして 葉舎

ふせ

周防宮市

叶せりし者於ふ十夜うぬ 指山

、

日所

物しそふるふおしそ 冬の日 光く

妻興

長洲菘

昔や妻ふ思ひし 思ひし 望朝

妻興

長洲菘

つらみの好くをる中 近翔

博多

青海苔の於らふハセぬ白ひき 披雲

縹くも伽り松ひし 庵うね 魯香

望むひや一はしりたる 嫁姑 高如

ふ梅の細さをり 西不都 四川

手抄

肥前佐賀

藤下しも妻 訪妻也 葉舎 兼亮

長洲 兼亮 長洲 兼亮 長洲 兼亮

長洲 兼亮 長洲 兼亮 長洲 兼亮

年始



よき音を中神あけ花見 石巻 鳥舌

来末

正月の事さけり 石巻 石巻

来興

さかや下谷ありの娘やき 横文

来々

石巻

源川

雪のふに 妹ふとさーの日記 風流

歳旦

相砂種会

えりや世界の人の集い月一 波音

年指

よりの追分 石巻 年のくさ

春興

日光山下

えりや川の山あちも 石巻 芝水

相砂種会

梅うきや机のよりー 京の女 魚房

信州上白

おゆりの集いー 石巻 松

磯後島川

よりの集い 石巻 意流

事考

江別池之記

神代中 年々 之乃 録 著 録

神代中 年々 之乃 録 著 録

神代中 年々 之乃 録 著 録

神代中 年々 之乃 録 著 録

神代中 年々 之乃 録 著 録

神代中 年々 之乃 録 著 録

神代中 年々 之乃 録 著 録

神代中 年々 之乃 録 著 録